

【資料 1】

令和4年度水道事業及び下水道事業決算について

令和5年11月1日

柏市上下水道局 経営企画課 財務担当

≪目次≫

項 目	頁
§ 1 公営企業会計の構成	1
§ 2 収益的収支と資本的収支について	2
§ 3 収益的収支と資本的収支の関係	3
§ 4 令和4年度決算の概要 ～水道事業～	4～7
§ 5 令和4年度決算の概要 ～下水道事業～	8～11

§1 公営企業会計の構成

公営企業会計は収益的収支と資本的収支の2本立て

一般会計（官庁会計）では、一切の収入を歳入とし、一切の支出を歳出としています。

これに対し、公営企業会計（本市では、水道事業、下水道事業及び病院事業で採用）では、「収益的収支」と「資本的収支」を区分して経理をする2本立てとなっています。

事業管理に関する会計（収益的収支）と建設改良等に係る会計（資本的収支）を区分することにより、当該事業年度の経営成績を正確に把握することができます。正確な経営成績を把握することで、事業の効率性や生産性を検証することができます。

(1) 収益的収支

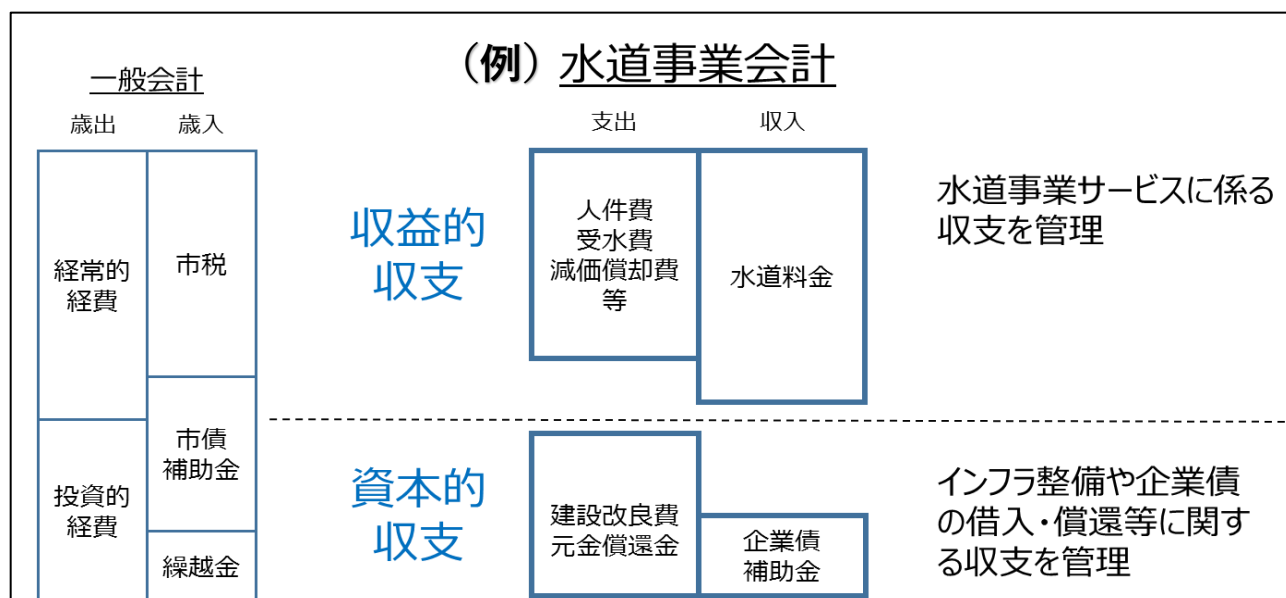
収益的収支は、主に本業である事業に係る収入と支出を管理するもの

1年間（毎年4月1日から翌年3月31日までの期間）の事業の経営成績を示すもの

(2) 資本的収支

主に事業に必要なインフラ整備及び企業債の借入・償還等に係る収支を管理するもの

1年間のインフラ整備の状況を表すもの



§2 収益的収支と資本的収支について

1 収益的収支とは

収益的収支とは、1年間の企業経営に伴い、発生する収益と費用を表したもので、企業としての経営成績を示すものです。

収益的収支	
支出	収入
運営管理費 等	水道料金 等
減価償却費	
当年度純利益	長期前受金戻入
	積立可能額

インフラ整備のための財源	
支出	収入
損益勘定留保資金	減債積立金
	建設改良積立金

収入：サービスの対価

支出：サービスの提供に係る経費

通常、この収益的収支は支出よりも収入が多くなるように設定されます。

この収益的収支で獲得した利益は内部留保資金となり、インフラの整備のための原資となります。

これら利益に加え、現金支出を伴わない費用である減価償却費等についても、内部留保資金となり、インフラ整備のための原資となります。

2 資本的収支とは

資本的収支とは、インフラの整備など、その投資の効果が次年度以降に及ぶものや、企業債の元金償還などの支出と、その財源となる収入を表したものです。

資本的収支	
支出	収入
建設改良費 企業債償還金	企業債 補助金 等
	収支不足額

収入：インフラ整備のための資金

支出：整備費や償還金等

資本的収支は、支出が収入を大きく上回り、収入不足となるのが通常です。

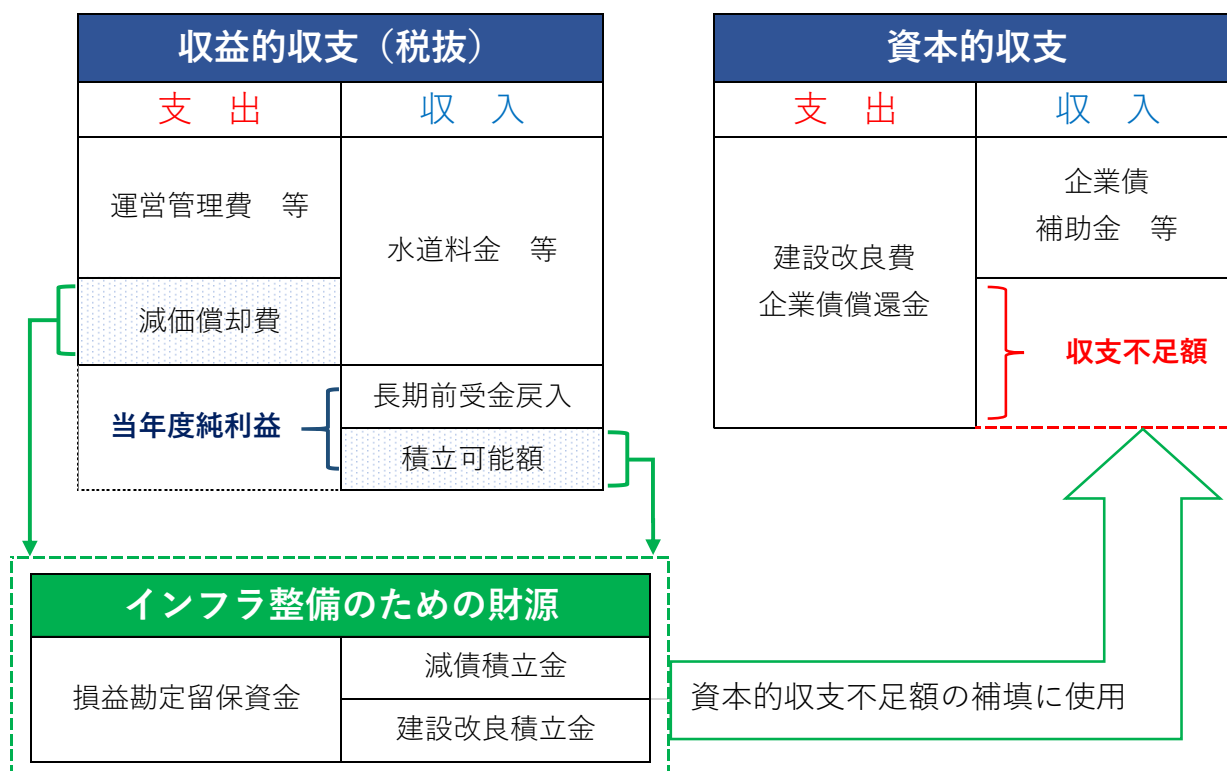
不足する金額は、収益的収支で蓄えられた内部留保資金等で補填することになります。

§3 収益的収支と資本的収支の関係

1 2つの会計の関係

インフラ整備（資本的収支）で発生する収入不足を、収益的収支で発生した利益等で補填します。

施設を正常に稼働し、安定的に水道水を供給するためには、適切なインフラ整備が必要であり、そのためにも、適切な料金設定のもと、一定の黒字を継続していく必要があります。



※収益的収支で利益を出し、資本的収支の不足額を補填するまでが一連のサイクル

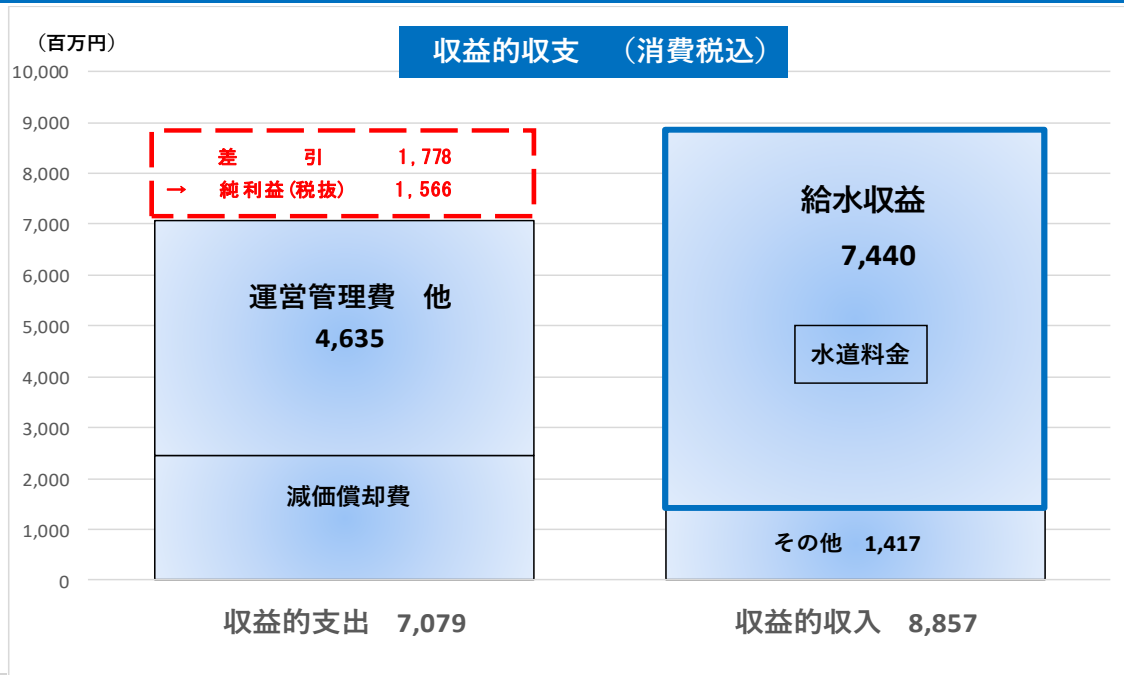
2 まとめ

上下水道事業会計は事業の経営成績を示す収益的収支とインフラ整備状況を示す資本的収支の2本立てで構成されています。

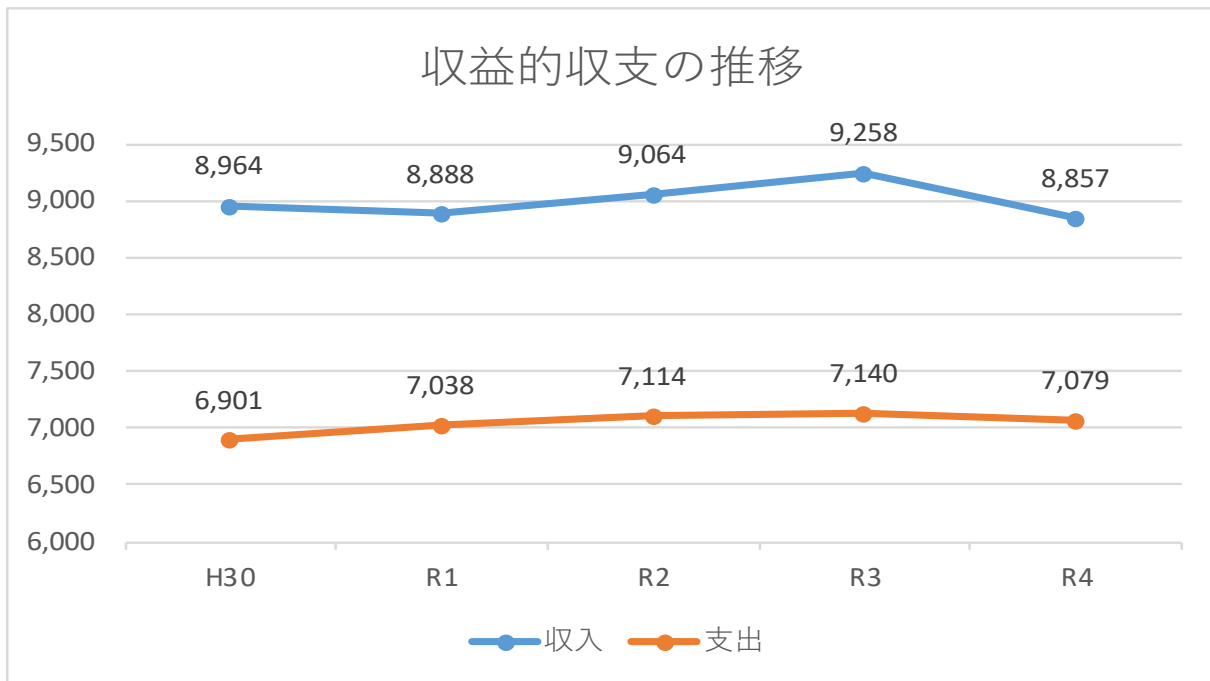
上下水道事業の状況を正しく把握するには、どちらか一方の会計を見るだけでは足りず、収益的収支と資本的収支の両方に注視する必要があります。

§4 令和4年度の決算の概要 ～水道事業編～

1 令和4年度 収益的収支決算額 (単位：百万円)



2 過去5年の収益的収支の推移 (単位：百万円) 消費税込



令和3年度に対する主な増減内訳

〔収益的収入〕

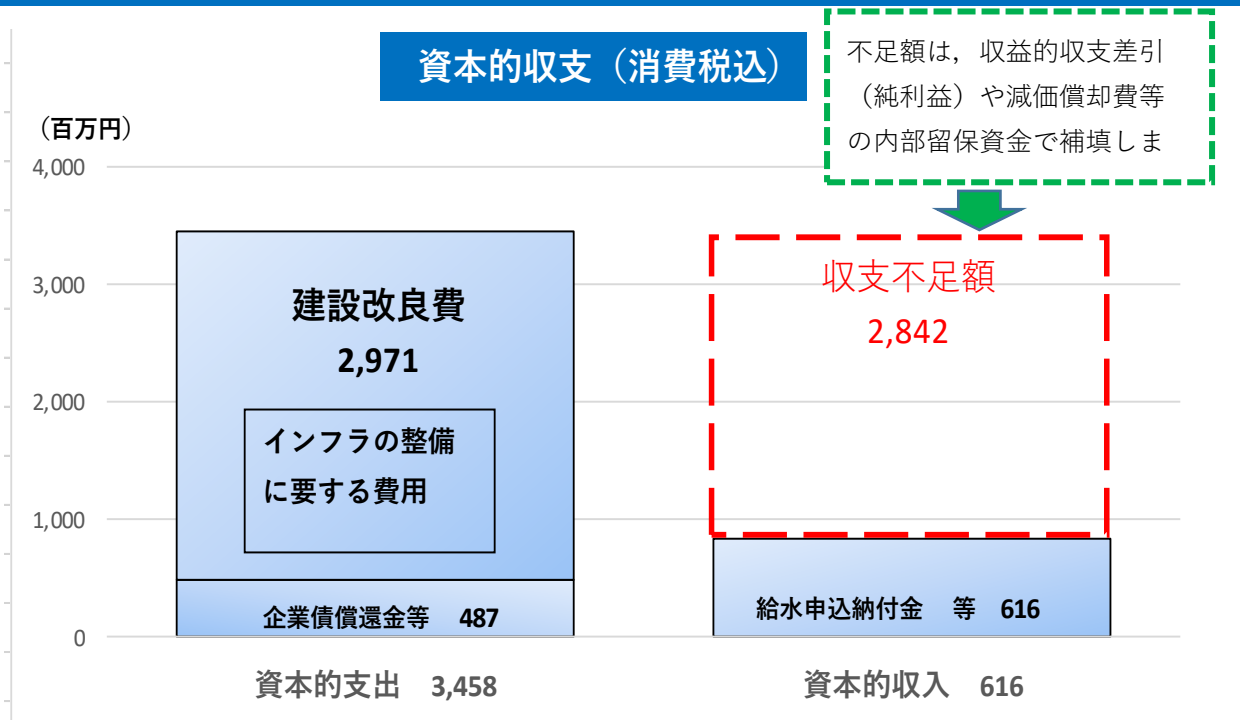
給水収益：△約4億7,000万円 其他営業収益：△約3億1,300万円 他会計補助金：+約4億4,500万円
消費税及び地方消費税還付金：△9,600万円 雑収益 +約3,400万円

〔収益的支出〕

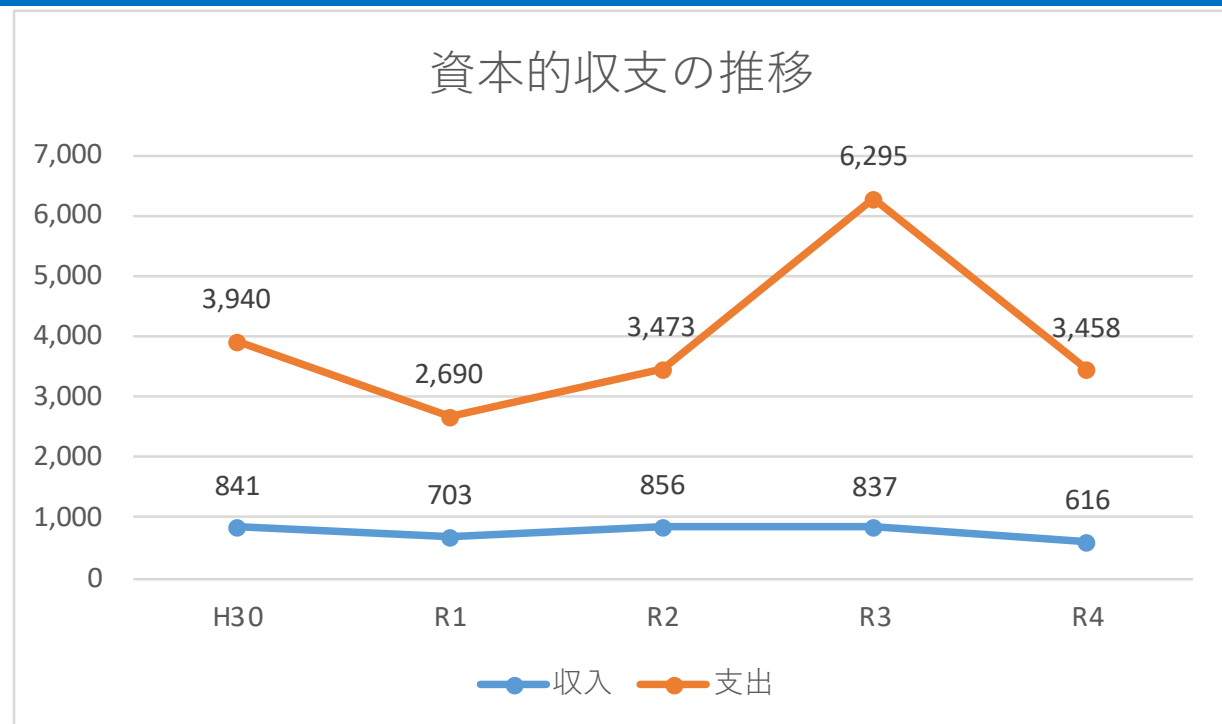
原水及び浄水費：△約8,100万円 業務費：△約1億8,300万円 減価償却費：+約1億5,100万円
消費税及び地方消費税：+約1億500万円

§4 令和4年度の決算の概要 ～水道事業編～

3 令和4年度 資本的収支決算額 (単位：百万円)



4 過去5年の資本的収支の推移 (単位：百万円) 消費税込



令和3年度に対する主な増減内訳

〔資本的収入〕

工事寄付負担金：△約9,500万円 給水申込納付金：△約1億2,000万円

〔資本的支出〕

建設改良費：△約28億3,400万円

§4 令和4年度の決算の概要 ～水道事業編～

5 主要事業

老朽管の更新・耐震化

- ・ 執行額 約13億145万円
- ・ 更新延長 約8.9 k m
- ・ 管路耐震化率
R3年度：33.0%→R4年度：33.8%



水道部庁舎再整備

- ・ 執行額 約3億2,501万円
- ・ 第2期工事（解体・外構整備等）完工
- ※事業完了



新設管路の布設

- ・ 執行額 約1億3,067万円
- ・ 布設延長 約 2.1 k m



老朽設備の更新

- ・ 執行額 約9億7,510万円
- ・ 中央監視設備更新工事
- ・ 水源地設備更新工事 他



水源地施設の耐震化

- ・ 第五水源地受水井耐震補強設計委託及び第一号配水池更新工事実施設計業務をR3年度からR5年度までの3年継続事業で実施中
※R4年度の執行額は無し。
委託契約総額：3,586万円
- ・ 第三水源地受水井更新工事をR3年度からR5年度までの3年継続事業で実施中
※R4年度の執行額は無し。
工事契約総額：2億9,480万円

危機管理体制の強化

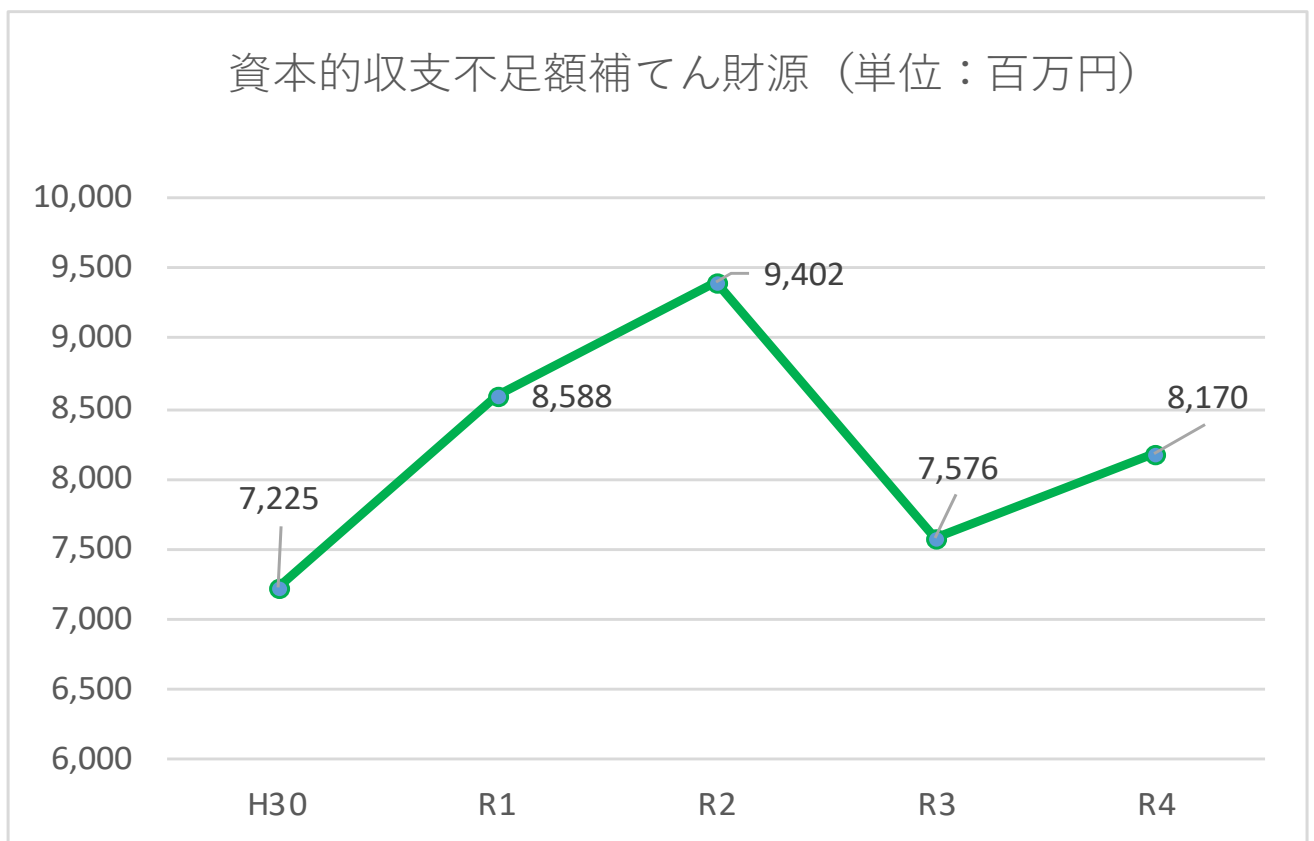
- ・ 執行額 約4,021万円
- ・ 災害対策用物資の購入 約2,195円
- ・ 給水車購入（1台） 約1,597万円
- ・ 中型免許取得の研修費 約110万円 他



§4 令和4年度の決算の概要 ～水道事業編～

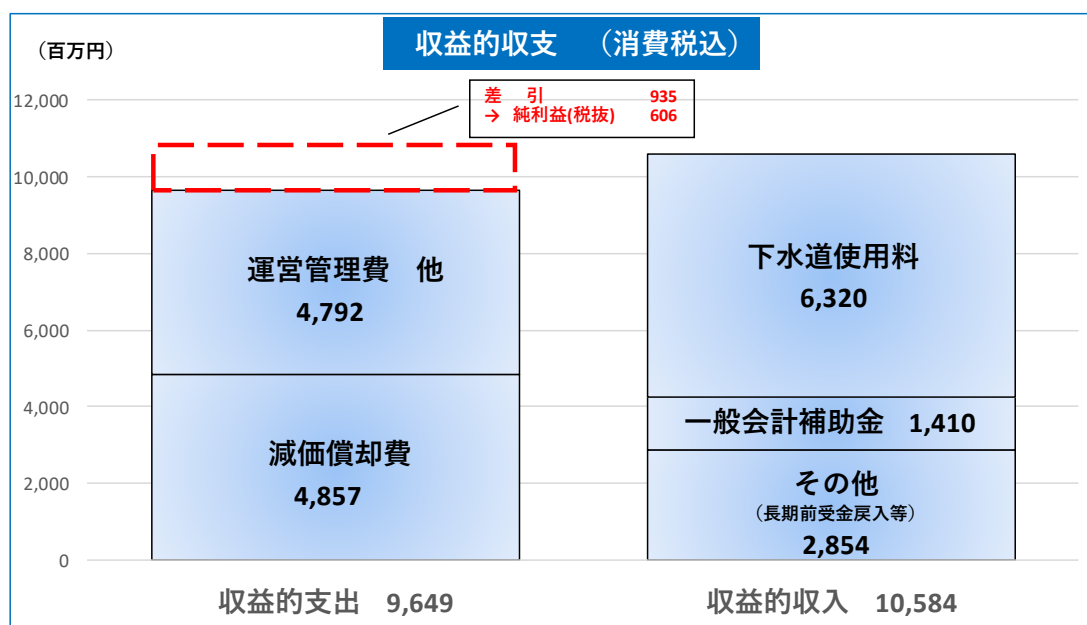
6 経営状況

- ・令和4年度においても安心安全でおいしい水の安定給水を維持し、主要事業も概ね計画どおり進捗しました。
- ・外出自粛緩和の影響からか、主に家庭用で使用されている口径20mm以下の水道使用量はわずかに減少しました。一方、工場・店舗など大口需要者の水道使用量は前年度と比べわずかに増加しました。また、令和4年度は電気代高騰など、公共料金等による市民生活の圧迫を緩和すべく、公共施設を除く各世帯に一調定分（2月・3月）の基本料金減免を実施しました。減免額は約4億3,600万円、減免処理に係る経費約900万円となりましたが、一般会計からの補助金により補填されています。
- ・収益的収支においては、約15億6,600万円の当年度純利益（税抜）となり、次年度以降の資本的収支不足額を補填する財源の一部となります。
- ・資本的収支においては、約28億4,200円の収支不足となりましたが、前年度の利益を処分して積み立てた積立金や、減価償却費等で確保した内部留保資金等で補填しました。
- ・これらの結果、令和4年度末の資本的収支不足額補てん財源使用可能額は約81億7,000万円となり、次年度以降の資本的収支不足額の補填に備えます。

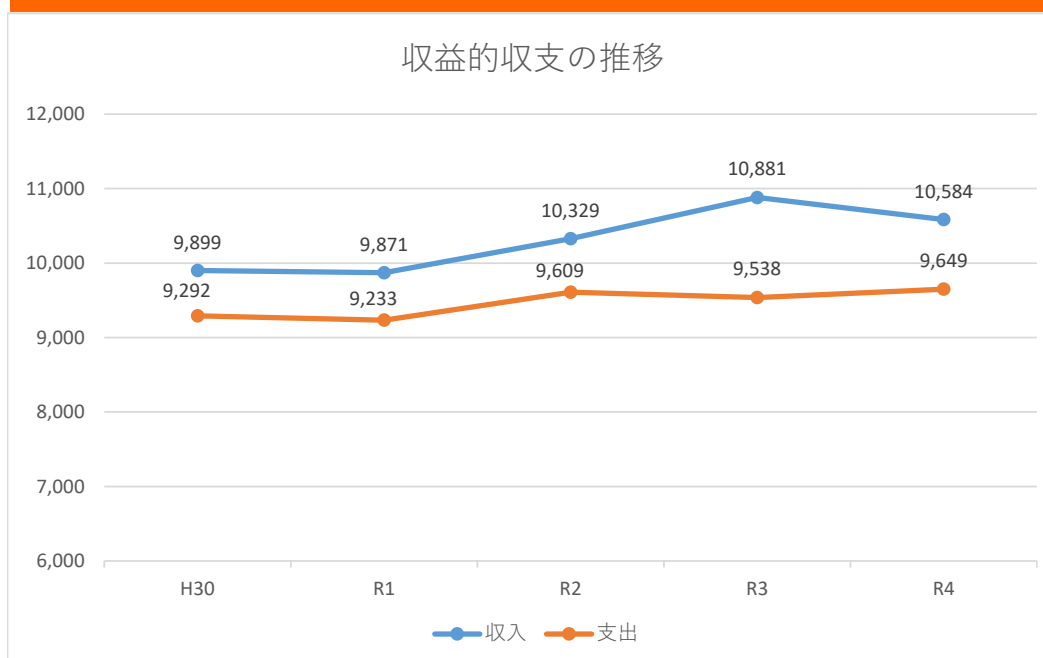


§ 5 令和4年度決算の概要 ～下水道事業編～

1 令和4年度 収益的収支決算額 (単位：百万円)



2 過去5年の収益的収支の推移 (単位：百万円) 消費税込



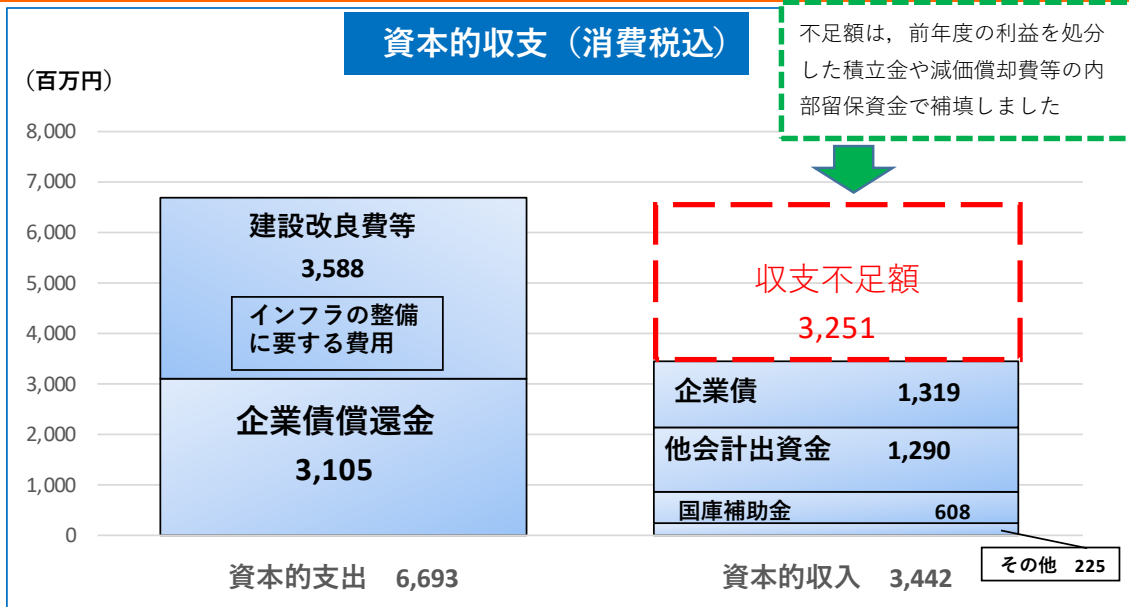
令和4年度は、令和3年度と比較し、収益的収入が減少し、支出が増加しました。

令和3年度に対する主な増減要因

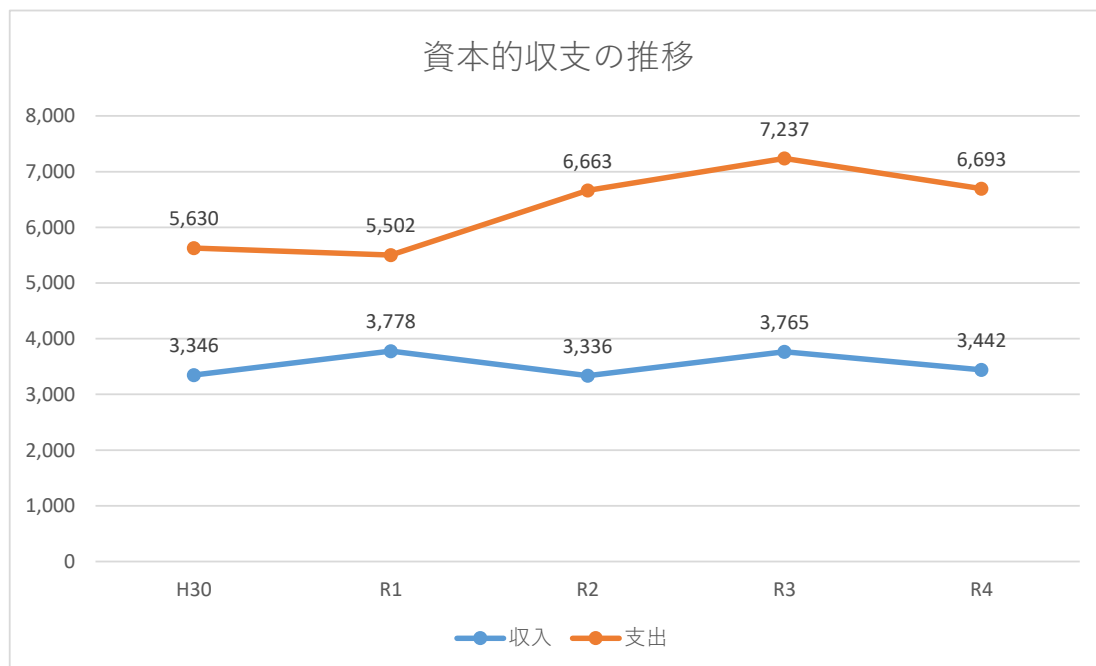
- ・ 収益的収入
 - 流域下水道維持管理費負担金返還金の減少により、約2億6,000万円減
- ・ 収益的支出
 - 流域下水道維持管理費負担金の増加等より、約1億1,000万円増

§ 5 令和4年度決算の概要 ～下水道事業編～

3 令和4年度 資本的収支決算額 (単位：百万円)



4 過去5年の資本的収支の推移 (単位：百万円) 消費税込



令和4年度は、国庫補助金等の資本的収入は約3.2億減少したものの建設改良費も約5.4億減少したため収支不足額も減少しています。

令和3年度に対する減少要因

- ・ 資本的支出
老朽化対策の建設改良費の減少により、約5億4,400万円減

§ 5 令和4年度決算の概要 ～下水道事業編～

5 主要事業

1 雨水管整備（浸水対策）

- ・ 執行額 16億8,677万円
- ・ 整備延長 2,857m
- ・ 整備面積 47ha
- ・ 整備率

R3年度：22.4% → R4年度：23.0%



2 污水管整備（未普及地域解消）

- ・ 執行額 10億9,935万円
- ・ 整備延長 5,017m
- ・ 整備面積 20ha
- ・ 普及率

R3年度：90.6% → R4年度：90.7%

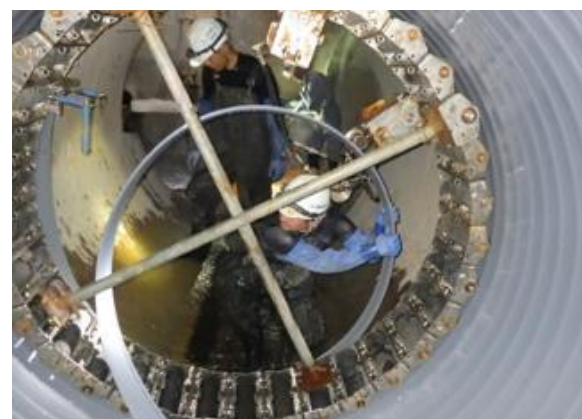


3 老朽化対策（包括的予防保全型維持管理業務委託）

- ・ 執行額 4億8,487万円
- ・ T Vカメラ調査 3.8km
- ・ 管更生工事 0.2km
- ・ 進捗率（第1期分のみ）

（調査）R3年度：99% → R4年度：101%

（工事）R3年度：63% → R4年度：67%



4 総合地震対策（災害用トイレ整備）

- ・ 執行額 7,483万円
- ・ 整備校数 6校（小学校）
- ・ 整備累計 20校（ // ）

R5年度までに30校整備予定



§ 5 令和4年度決算の概要 ～下水道事業編～

6 経営状況

- ・令和4年度は、主要事業として、雨水管及び污水管の整備を実施しました。また、管路の老朽化対策については、民間のノウハウを最大限に活用する包括的民間委託により、効率的かつ効果的に進めました。
- ・下水道使用水量は、昨年に比べ若干減少したものの、年間の下水道使用料調定額は前年度比約7,100万円（税抜）の増加となりました。
- ・営業費用では、流域下水道維持管理費負担金が前年比約3億3,000万円（税抜）の増加、営業外費用では、支払利息及び企業債取扱諸費が前年比約7,400万円の減少となりました。
- ・特別利益として、流域下水道維持管理費負担金の精算金約1億円（税抜）を計上しました。
- ・収益的収支は、約6億600万円の当年度純利益（税抜）となり、次年度以降の資本的収支不足額を補填する財源の一部となります。
- ・資本的収支は、約32億5,100万円の収支不足となりましたが、前年度の利益を処分して積み立てた積立金や、減価償却費等で確保した内部留保資金で補填しました。
- ・これらの結果、資本的収支不足額補てん財源使用可能額の残高は令和4年度末で約38億4,500万円となり、次年度以降の資本的収支不足額の補填に備えています。

